

平成21年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	米沢市・高鍋町青少年少女交流事業				開始年度	平成6年度	
基本目標	ふるさと教育の充実				終了年度		
担当課(局)	教育総務課	担当係	教育総務係	記入者	濱本 生代	評価者	永友 吉人
20年度決算	934	千円	21年度予算	431	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
20年度人件費	431 千円		21年度人件費	1,457 千円		事業従事者数	0.06 人 0.20 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	姉妹都市の由縁である秋月、上杉両家の関係や歴史、先人の偉業を学び故郷を愛する心を育て、心豊かな児童の育成を図る。
事業の内容	高鍋町の訪問団(団長:西小校長、副団長:東小教頭、東小学校児童5名、西小学校児童5名、教育総務課職員1名)が冬季に米沢市を訪問し交流を深めた。

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 報告書作成	2年間の交流で学んだことを感想文にまとめ、報告書を作成した。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 事業説明会の開催	事業に関する説明会を開催し、事業への理解を深める。
	2 訪問(19・21年度は受入)準備	訪問した際の役割分担に基づき児童とともに準備を行った。
	3	

◎達成状況

指標名		単位	19年度	20年度	21年度
成果指標	報告書作成	目標値	1	1	1
		実績値	1	1	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	事業説明会の開催	目標値	1	1	1
		実績値	1	1	
		達成率	100.0%	100.0%	
	訪問(19・21年度は受入)準備	目標値	2	2	2
		実績値	2	2	
		達成率	100.0%	100.0%	
0	目標値				
	実績値				
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	

◎事務事業の評価

妥当性(必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	姉妹都市交流を通して児童の健全育成を図ることを目的とするため町が行うべき事業である。 児童生徒を対象とした姉妹都市交流事業はほかになく、事業廃止はその機会を失うことになる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	19年度に高鍋町で交流する際に高鍋町の歴史や先人について学び、20年度に米沢市を訪問することでその結びつきや歴史をさらに深く学習することができた。 また、異なる気候風土を体感することができたことや、高鍋町の児童を代表して交流できたことは、将来を担う人材の育成に寄与する。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	米沢市を訪問する年は高鍋町の経費負担は交通費、宿泊費のみである。参加児童から負担金も徴収している。経費を削減するためには児童負担金の増額しかないと考えられるが、それにより参加児童の対象が狭まることは避けたい。
協働性	◎町民との協働の可能性があるか(ボランティア・NPO等)	米沢市を訪問する年における協働の可能性はない。

事務事業名	米沢市・高鍋町青少年少女交流事業	担当課(局)	教育総務課
-------	------------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	現在の方式(2か年でメンバーが変る)の2年目(米沢を訪問する)で、子どもたちの1年間の成長、(この間に文通などで交流を深めていた)が際立っていて、この事業の有用性が見て取れたと思う。先賢に学び、郷土を誇りに思うふるさと教材として、また郷土以外の地の文化や生活を体得し、遠方に知己を得ることは学童にとって大きな価値があると思われ姉妹都市交流の架け橋として今後も継続したい。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持			○	
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎現行の方式に変更して、有効性が図られたということであるので、今後も効果的な事業展開を望む。
	コスト	現状維持	